

平成28年度 文教委員会資料

【川崎市外国人市民代表者会議2015年度年次報告について】

資料 川崎市外国人市民代表者会議2015年度年次報告書－概要－

別冊 川崎市外国人市民代表者会議 年次報告＜2015年度＞

市 民 文 化 局

(平成28年4月28日)

ねん がつ
2016年3月

かわさきしちょう ふくだ のりひこ さま
川崎市 市長 福田 紀彦 様

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

い いん ちょう せぬー じょあきむ
委員長 セヌー ジョアキム

ふくいんちょう おるそん ちゃーるず
副委員長 オルソン チャールズ

ねん だかわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ ほうこく
2015年度川崎市外国人市民代表者会議の報告

だい き かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ ねん じめ ねん がつ にち ねん がつじゅうよっか かい ょう
第10期川崎市外国人市民代表者会議の2年次目は、2015年4月26日～2016年2月14日まで4回(8
か かいぎ りんじかいぎ おーぶんかいぎ くわ ごうけいここのか かいぎについて しゅうりょう
日)の会議と、臨時会議であるオープン会議を加えた合計9日の会議日程を終了しました。

ちょうさしんぎ けつか ほうこく
ここに調査審議の結果をまとめ、報告いたします。

だい き だいひょうしゃかいぎ ねん じめ さくねんどおこな こくさいこうりゅうらうんじ ふうーるどわーく ふ かえ
第10期代表者会議2年次目は、昨年度行った国際交流ラウンジへのフィールドワークの振り返
りをするるとともに、ぼご ぼぶんか こうこうしんがく くやくしよさーびす そうだんまどぐち じょうほうでんたつ ぎょうせい しみん
のコミュニケーション環境づくり、短期滞在者の支援、提言の評価等を主なテーマに調査審議し
ました。

また、11月に開催したオープン会議では、「外国人支援と多文化共生のための地域の拠点づくり」
をテーマに、てーま しょうぐるーぶ わ かわかて わーくしよっぶ じっし だいひょうしゃ さんかしゃ せつきょくてき
小グループに分かれてワークショップを実施し、代表者と参加者による積極的な
いけんこうかん おこな ていげん と む しみん かつ こめんてーたー かつら きちょう がいけん
意見交換を行い、提言の取りまとめに向けて、市民の方やコメンテーターの方からも貴重な御意見を
いただきました。

ちょうさしんぎがい しみんまつ どう いべんと さんか さまざま しみん こうりゅう ふか
さらに、調査審議以外にも、市民祭り等のイベントに参加して様々な市民との交流を深めるなど、
はばひろ かつどう
幅広く活動してきました。

かわさきしがいこくじんしみんじんこう ねん がつまつじつげんざい こくせき ちいき にん ぜんしみん し
川崎市の外国人市民人口は、2015年12月末日現在、125の国籍・地域の32,975人、全市民に占める
わりあい こ だい き だいひょうしゃかいぎ しなひ ぜんがいこくじんしみん だいひょう
割合は2.2%を超えています。第10期代表者会議では、それぞれが市内の全外国人市民の代表で
あることを常に意識しながら会議に臨んできました。

かわさきし だれ こころゆた く しゃかい じつげん かわさきし
川崎市では、誰もがいきいきと心豊かに暮らせる社会を実現していくため、「川崎市
たぶんかきょうせいしゃかいすいしんしん さくてい さまざま しさく おこな わたし がいこくじんしみん ちいきしゃかい
多文化共生社会推進指針」を策定し、様々な施策を行っています。私たち外国人市民も地域社会を
こうせい いちいん たぶんかきょうせい こうけん おも
構成する一員として多文化共生のまちづくりにさらに貢献していきたいと思ひます。

さいご にほんじん がいこくじん あんしん せいかつ とも い ちいきしゃかい けいせい
最後になりましたが、日本人も外国人も安心して生活できる、共に生きる地域社会の形成をめざし
て、ぜんこく さきが じょうれい がいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ せつち しちようおよ しぎかないら
全国に先駆けて条例による外国人市民代表者会議を設置して下さった市長及び市議会並びに
しみん みなさま こころ かんしゃ もう あ かいぎ さぼーと かんけいしゃ みなさま
市民の皆様にご心から感謝を申し上げます。さらに、会議をサポートして下さっている関係者の皆様
あつ れい もう あ
に厚くお礼を申し上げます。

第10期代表者名簿（4ページ）

16の国籍・地域の26人の代表者が「福祉教育部会」と「社会生活部会」に分かれて調査審議

委員長・副委員長

名前	国籍・地域	居住区	実行委員会等
委員長 セヌー ジョアキム	ベナン	高津区	オープン会議実行委員長
副委員長 オルソン チャールズ	米国	高津区	オープン会議副実行委員長

福祉教育部会

園田 泉 ベアトリス	ブラジル	宮前区	部会長、オープン会議
河本 ファビオ 良則	ブラジル	川崎区	オープン会議、かわさき市民祭り実行委員会委員
金 スンオグ	朝鮮	川崎区	ニューズレター
ケゼングア エドワード	ケニア	中原区	市民祭り
鈴木 イエレナ	ロシア	宮前区	市民祭り
崔 想	韓国	中原区	オープン会議
仲田 シリワン	タイ	高津区	市民祭り
バルトコバ オクサナ	ウクライナ	川崎区	市民祭り
ヒラチャン アスカ	ネパール	高津区	市民祭り実行委員長
へい ジャ フィ	マレーシア	川崎区	市民祭り、川崎市成人式企画実施委員会
牟 鳳菊	台湾	宮前区	市民祭り
劉 健全	中国	中原区	オープン会議

社会生活部会

任 家林	中国	川崎区	部会長、ニューズレター
ヴィラマー ジェリー	フィリピン	麻生区	ニューズレター
王 タ心	中国	宮前区	市民祭り
グエン ゴク バオ リン	ベトナム	高津区	ニューズレター
孔 敏淑	韓国	高津区	ニューズレター
シフケン ブランドン	米国	麻生区	オープン会議
シャルマ ガジェンダー（～2014年8月）	インド	幸区	オープン会議
タカハシ ライゼール ラモス	フィリピン	川崎区	オープン会議
張 氷青	中国	多摩区	オープン会議
ディットマー ダニエラ	ドイツ	多摩区	ニューズレター編集委員長
童 埴恆（2014年10月～）	台湾	高津区	市民祭り
河 相宇	韓国	高津区	オープン会議
葉 元聡	中国	多摩区	オープン会議

I 会議の報告（5～23ページ）

会議開催概要（6～7ページ）

会期		開催日／場所	代表者／傍聴者
第1回	第1日（通算①）	2015年4月26日／国際交流センター	24人／12人
	第2日（通算②）	2015年5月24日／国際交流センター	26人／2人
第2回	第1日（通算③）	2015年6月21日／国際交流センター	21人／3人
	第2日（通算④）	2015年9月13日／国際交流センター	23人／16人
第3回	第1日（通算⑤）	2015年10月18日／国際交流センター	23人／12人
臨時会	（通算⑥）	2015年11月15日／国際交流センター	参加者 約120人
第3回	第2日（通算⑦）	2015年12月6日／国際交流センター	21人／4人
第4回	第1日（通算⑧）	2016年1月17日／国際交流センター	24人／3人
	第2日（通算⑨）	2016年2月14日／国際交流センター	24人／8人

* 川崎市外国人市民代表者会議条例 第9条 会議の開催は、1年に4回とし、1回当たり2日とする。

調査審議の内容（8～14ページ）

各部会の審議テーマ

福祉教育部会

- (1) 母語・母文化について
- (2) 高校進学について
- (3) フィールドワーク（国際交流ラウンジ（横浜市）「つづきMYプラザ」視察）の振り返り
- (4) 子育て広場について
- (5) 外国語版母子健康手帳について
- (6) 保育園について
- (7) 子育てガイドブックについて

社会生活部会

- (1) 区役所サービス（ワンストップ窓口）について
- (2) 相談窓口について
- (3) 情報伝達について
- (4) 行政と市民のコミュニケーション環境づくり
- (5) 短期滞在者への支援
- (6) 介護分野の就職支援
- (7) 居住支援

オープン会議（15～23ページ）

日時 2015年11月15日 14:00～17:00

場所 国際交流センター 1階 ホール

参加者 約120人

第1部 第10期審議テーマの紹介

第2部 ワークショップ・全体会グループ発表

テーマ 「外国人支援と多文化共生のための地域の拠点づくり

—『国際交流ラウンジ（仮）』の設置をめざして—

Ⅱ 提言（25～49ページ）

【1】地域の拠点づくり（26～33ページ）

外国人支援（情報提供・情報発信、相談窓口）と多文化共生（異文化交流、国際理解の促進、居場所やネットワークづくり）の推進を目的とし、市民と行政、また市民同士をつなぐ中間支援組織の役割をはたす地域の拠点づくりを推進する。

- 1 「多文化共生ラウンジ（仮）」を市内の複数か所に設置する。
- 2 川崎市国際交流協会は、行政とも協力しながら各拠点同士の相互連携やネットワークづくりにおいて主導的な役割を担うよう努める。

【2】子育て支援（34～37ページ）

外国人市民が安心して日本で子育てができるよう、出産・子育てに関する多言語情報の提供を促進する。

- 1 外国語版母子健康手帳の窓口での提供および広報・周知を促進する。
- 2 各区が作成している子育てガイドブックの多言語化を推進するとともに、それが有効に活用されるよう外国人市民への提供に努める。

【3】高校進学（38～42ページ）

（2009年度提言の再提言）

外国につながる子どもたちが、言語の壁によって高等学校への進学を諦めることがないように、入試制度および入学後の支援を充実させる。

- 1 川崎市立の高等学校において、外国につながる子どもたちに配慮した特別な入試制度を導入する。
- 2 神奈川県立の高等学校において現在実施されている在県外国人等特別募集枠（在県枠）について、学校数と定員数を増やすとともに、3年以内という条件を緩和するよう働きかける。また、とくに川崎市内の県立高校において在県枠が設置されるよう働きかける。
- 3 受験時における配慮だけではなく、学校生活にスムーズに適應できるよう日本語指導をはじめとする入学後の受け入れ体制についても整備、充実させる。

【4】入居差別（43～45ページ）

（1996、1997年度提言の再提言）

入居差別を解消するための取組を推進する。

- 1 入居差別解消に向けた取組を進めるための相談窓口を設置する。
- 2 川崎市住宅基本条例を不動産会社や家主だけでなく、外国人市民へも周知する。
- 3 川崎市居住支援制度の利用促進のための取組を行う。

【5】やさしい日本語（46～49ページ）

「やさしい日本語」による情報提供を充実させる。

- 1 「やさしい日本語」に関するガイドラインを作成する。
- 2 市ホームページにおける「やさしい日本語」による情報を増やすとともに、それらを集約し、外国人市民が利用しやすいものとなるようホームページを改善する。

Ⅲ 各種活動状況（51～61ページ）

市長・市議会への報告（51ページ）

行事への参加（55～57ページ）

代表者の活動状況（58～59ページ）

Ⅳ 資料（63～128ページ）

外国人住民人口統計（63～65ページ）

提出資料一覧（66～67ページ）

提言の取組状況（68～118ページ）

外国人市民代表者会議のしくみ（119～120ページ）

条例・要綱・要領（121～128ページ）